

テーマ 自分にとっての平和について

考えたこと

題名 平和の形

鹿沼市立東中学校 (氏名) 田中 義人



私は、平和について考える際に、自分の学校生活を振り返ってみた。私の学校では、いじめはない、そしてもちろん戦争がある訳でもない。しかし、小さなところに目を向けると、会話の中である人の体質に触れて、差別する人がいる。そのような状態は、平和と言えるのだろうか。言われた本人はどう受けとればよいのだろうか。きっと、それを言った人は相手を傷つけようとして言ったわけではないと思う。ただ自分がその人より優れた人間であると安心したかったから無意識の内に人を傷つけてしまったのだと思う。戦争も似ていると思う。

戦争をする国の偉い人たちは自分の国がほかの国より長けているという安心を求め、罪のない人々に手を上げ、無慈悲にも命を奪い取る。そのような愚行が今もなお行われている。これらの差別や戦をなくす方法は、1つしかないと思う。それは思いやりを持つことだ。1人1人が思いやりを持ち、発言する際に、自分がこれから話す言葉は、相手を傷つけないか心の中で確認すれば差別は、なくなると思う。しかし、私たちだって所詮人間だ。間違えて口に出してしまうことがあるかもしれない。その時は、誠意をもって謝罪をすれば、言われた人も少しは、救われると思う。

広島平和記念式典派遣事業の中で被爆体験講話があり、そこで被爆者の方は、「怒りからは平和は生まれない」とおっしゃっていた。平和を脅かす、「いじめ」・「差別」・「戦争」は、怒りや憎しみを生むことになってしまう。その感情をもってやり返すことは絶対にしてはいけない。なぜならば、それは負の連鎖を作り出してしまふからだ。そのため、何かをされたり、言われたりしたら、優しさを返せば、きっと優しさが戻ってくる。これが理想の平和の形だと私は考える。そして私たちは笑顔で楽しく安心してご飯が食べられる現状を感謝して、生きていかななくてはならないと思う。